

# 第76回日本矯正歯科学会学術大会 優秀発表賞 受賞者

発表番号	著者氏名		著者所属	演題名
口演-004	栗原	加奈子	新潟大学大学院医歯学総合研究科歯科矯正学分野	成人前歯部開咬症の舌突出が嚥下時舌圧発現様相に与える影響
口演-007	池田	安紀津	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野	咀嚼が食欲制御機構に与える影響 – 食物関連視覚刺激を用いた認知心理学的研究 –
口演-011	荒井	大志	徳島大学大学院口腔科学教育部口腔顎顔面矯正学分野	CRISPR/Casシステムを用いたMsx1遺伝子各ドメインの形態形成における機能検証
学展-043	東堀	紀尚	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 顎顔面矯正学分野	骨格性下顎前突患者に対する外科的矯正治療による呼吸機能動態変化 – 主観的評価と客観的評価の比較 –
学展-045	安田	豪	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科歯科矯正学分野	モーションキャプチャーを用いた6自由度顎運動計測システムの改良と測定精度
学展-052	荒川	雅弘	九州大学大学院歯学研究科口腔保健推進学講座歯科矯正学分野	下顎前突症患者における筋機能MRIおよび31P-MRSを用いた咀嚼筋疲労の分子イメージング
学展-057	石原	嘉人	岡山大学病院矯正歯科	ギャップ結合とConnexin43ヘミチャネルは骨細胞へのメカニカルストレスに由来したカルシウム応答を制御する
学展-106	八尋	浩平	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 顎顔面矯正学分野	メッセル軟骨の発生過程に及ぼすヒストンメチル化酵素Setdb1の影響とBMPシグナルの関与
学展-111	小川	卓也	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 咬合機能矯正学分野	成長期鼻呼吸障害に伴う記憶・学習機能および海馬組織の変化に関する多角的解析
学展-126	門脇	佳緒里	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野	歯科矯正用アンカレッジデバイスへの応用を目指した新規HAp/Colコーティング法の開発
学展-131	平塚	泰三	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野	HAp/Colによる急速な骨膜下骨誘導は母骨の吸収機転を伴う
学展-136	小澤	英里佳	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科咬合機能矯正学	磁気共鳴脳血管画像診断における矯正歯科装置の影響
学展-137	富田	侑希	北海道医療大学歯学部口腔構造・機能発育学系歯科矯正学分野	口腔内スキャナから得られたデジタルモデルの精度と3Dプリントモデルの精度比較
学展-170	河村	純	河村歯科医院	リングブラケット矯正法における前歯遠心移動のメカニクス-有限要素法によるシミュレーション-
学展-177	中村	政裕	岡山大学病院矯正歯科	III級不正咬合症例における歯科矯正用アンカースクリュー使用群とIII級ゴム使用群の治療結果の比較検討
学展-178	納谷	はるな	日本大学歯学部歯科矯正学講座	歯科矯正用アンカースクリュー安定のための正中口蓋縫合の癒合時期に関する検討
学展-193	大塚	麻衣	北海道大学病院歯科診療センター	外科的矯正治療前後の顎口腔機能の評価
学展-205	小林	孝敬	東北大学大学院歯学研究科口腔保健発育学講座顎口腔矯正学分野	片側性臼歯部crossbite患者と正常咬合者の顎関節円板位置の比較
学展-233	小倉	健司	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野	頭蓋縫合早期癒合症患者の口蓋形態の三次元的解析 – アペール症候群とクルーゾン症候群の比較 –
学展-234	山地	晃二郎	九州歯科大学歯学部歯学科健康増進学講座顎口腔機能矯正学分野	唾液腺におけるApert症候群モデルマウスの病態解析
学展-245	原田	桃子	カノミ矯正・小児歯科クリニック	上顎急速拡大治療が上顎犬歯歯胚位置に与える影響
症展-017	石田	宝義	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科咬合機能矯正学分野	Le Fort I型骨切り術（前方移動）を施行し閉塞性睡眠時無呼吸を改善した1症例
症展-018	山本	沙優里	大阪大学大学院歯学研究科顎顔面口腔矯正学教室	Crouzon症候群患者に対してLeFort III型上顎骨延長術を伴う矯正治療を行った一例
症展-028	大坪	邦彦	大坪矯正歯科医院	デンタルインプラント治療を併用した包括的矯正単独治療により咬合を再構築した高齢者の骨格性下顎前突症例
症展-042	宮崎	佳奈子	九州大学病院矯正歯科	アレンドロネートの周期的静脈投与を受けている成長期骨形成不全症患者3症例の顎顔面形態の特徴
症展-053	犬束	信一	いぬづか矯正歯科	巨大な含歯性嚢胞に対し開窓療法と矯正治療を行い埋伏歯の萌出誘導をなし得た1例
AE-012	HUTAMI	Islamy Rahma	Department of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics, Tokushima University Graduate School of Oral Sciences	Role of hypoxia inducible factor-1α in the palatal wound healing